

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈4月10日（金）放送分〉

テーマ「奄美の民話や昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第2金曜日にお届けする、「鹿児島の民話や昔話」シリーズの第1回、北薩地方の昔話「サルどんとカニどんの餅合戦」です。

むかし、むかし、サルどんとカニどんが、住んでいました。年も押し迫り、正月も近づいてきたので、サルどんは、「カニどん、もう、あさっては正月だなあ。あんたといっしょに、餅でも、つこうかなあ。」と、カニどんに相談を持ちかけてみました。そうしたら、カニどんは、それを「快く承知して、うん、そうするかなあ。それなら、おれ、杵を作る木を探してくるよ。」と、早速、木を切る鉈を持って、杵を作る木を探しに出かけていきました。

しばらく細い道を歩いていくと、その山道はだんだんぐにゃぐにゃと曲がりくねっていました。また、面白いことに、その曲がった道の両側に生えている木も、みんなぐにゃぐにゃと曲がっていたそうです。カニどんは、「餅をつく杵には、この曲がった木のほうが、かえっていいかも。」と思って、一番曲がった木を切り出して、急いでサルどんのいる所へ帰っていきました。

早速、その木をサルどんに見せると、「こんな曲がった木で、杵ができるものか。まっすぐな木を切ってこい。」と、サルどんは、せっかくカニどんが切ってきた木を、ぼいと突き返してしまいました。

そこで、カニどんはしぶしぶ鉈を持って、また、細い道を歩いていったら、今度は、まっすぐな道ばかりでした。その道の両側には、まっすぐな木がきちんと立っていたので、そのまっすぐな木を根もとから叩き切って、持ち帰っていったそうです。

帰ってみると、サルどんは、さっきの曲がった木で杵を作り、もう、とっくの昔に、餅をつき終わってしまいました。しかも、その餅はただの一つも残さず、米袋に詰め込んで、サルどんは庭の柿の木の、小枝に腰掛けて悠々としていました。そして、カニどんが帰ってきたのに気がつく、「ゆさごんたるべえ、ゆさごんたるべえ。」と、枝を揺さぶり揺さぶり、餅を米袋から出しては食べ、出しては食べておったそうです。

二度も、杵になる木を切りにいったカニどんは、もう、すっかり疲れ切って、お腹もぺこぺこになっていたのです。木の上のサルどんを見上げて、「サルドーン。おれにも、その餅をくれないかあーっ。腹が減って腹が減って、たまらないよー。」と、頼み込んでみましたが、サルどんは、「べーろ。」と舌を引っ張ったり、お尻をぺたぺた一と叩いてみせたりするばかりで、なかなかカニどんには、餅を分けてはくれません。そこで、カニどんは、サルどんに向かって大きな声で、「サルドーン。その米袋を、枯れ枝に引っかけて揺さぶれば、とても、面白いぞ。」と言いました。そうす

ると、カニどんの^{はかりごと}謀とは知らぬサル^{つる}どんは、「えいっ。」と身軽に、枯れ枝に乗り移り、その枯れ枝に餅の入った米袋を吊^{つる}して、「ゆさごんたろべえ。ゆさごんたろべえ。」と、大きく揺さぶりました。と、その^{とたん}途端、ぼきぼき一っつと、その枯れ枝が折れ、どさ一っつ、ばらばら一っつと、サルどんの体と一緒に、その餅も落ちて地面に散らばってしまいました。「それ一っつ。今のうちだ。」と、カニどんは、必死になって餅をかき集め、素早く小穴の中へ、逃げ込んでしまったそうです。

カニどんに謀られたサルどんは、かんかんに怒って、小穴の中に足を入れてみたり、手を入れてみたりして、カニどんを捕まえようとしていましたが、いっこうに、その手や足が、カニどんの所へは届きません。そこで、仕方なく、「こらっ、カニどん。お前は、早く出てこないか。出てこないなら、俺が、^{くそ}糞をするからな。」と言って、お尻を小穴の入口に向けました。そのとき、穴の中からカニどんが、「えい一っつ。この野郎め一っつ。」と、力一杯、^{はさみ}鋏でサルどんのお尻を、^{はさ}挟みつけてしまいました。「あいた、た、た、た。許して。許して。毛はあげるから、許して。」と、サルどんは痛くてたまらず、涙をぽろんぽろん落として謝りました。

そこで、ようやく、カニどんは、鋏を放してやりましたが、サルどんのお尻の毛がそのまま、すぽっと抜け落ちて、カニどんの鋏にそのまま残ってしまいました。そして、今のサルのお尻は赤くて毛がなく、カニの鋏には毛があるという話です。

さて皆さん、今回のお話はどうか。欲深くてお餅を独り占めにしようとしたサルが、最後はカニに餅を取られた挙げ句、お尻の毛まで失うというものでした。有名な「サルカニ合戦」など、昔から多くの昔話において、サルとカニは永遠のライバルのように描かれています。

鹿児島ではカニを「ガネ」と呼び、^{いも}芋のカキアゲのことをカニの形に似ていることから「ガネンテンプラ」と^な名付けられています。鋏に毛がついたカニは、モクズガニという種類で、こちらは「^{やまたろう}山太郎ガニ」と呼ばれていて、^ゆ茹でるととてもおいしいカニです。

このように奄美図書館には、郷土に伝わる昔話を紹介した本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。